

(様式例) 令和6年度都立大泉桜高校における教科指導の重点

教科	重点課題	取組	発展的取組
国語	「書くこと」の指導の充実	「書くこと」を指導する単元を設定する。各単元で語彙力を高められるよう工夫して指導する。	・創作活動を行い、校内発表を行う。 ・外部のコンテスト等へ応募する。
社会	「自分で考えて理解する」の指導の充実	歴史的事象や経済問題への取り組みについて、自分自身で理解できる可能性の選択肢を作り、自分で選ぶ習慣を身に付ける。	自分基準(自分のなかの確信・判断)で考えて、わかった時の喜びを感じることができるように指導する。継続で学力向上となる。
数学	数学における基本的な概念や原理・法則を理解させる。	教科書の例題・練習問題レベルの基礎的な問題の習熟を目指し、それを通じて数学的に表現・処理する技能を身に付ける。	数学検定の受検を推奨し、数学的な理解を深める。
理科	身の回りの科学現象に主体的に関わり、探求する姿勢を育てる。	様々な科学現象について興味を持たせ、教科書の内容と結び付け、理解し、生活に生かす力を身に付ける。	テーマを与え、主体的に調査研究させ、レポートにまとめる。さらに時間があれば授業内で発表させる。
音楽	豊かな感性の育成と基礎的な知識・技能を身に付けさせる指導の充実	・知覚したことと感受したこととの関わりについて考えさせる。 ・楽典や演奏技能の基本を繰り返し丁寧に指導する。	生徒相互の発表や講評の機会を設ける。
外国語	「話すこと」の指導の充実	JET・ALTを活用した言語活動の充実と、個別の会話時間をオンライン英会話で確保していく取組み。	リスニングテスト等を通じて、授業内での言語活動の成果を、実践的な技能へと繋げていく。
情報	「情報の知識・技術両方を身に付けさせる」指導の充実	・座学を中心とした知識の定着を目指す教育 ・実習を中心とした技術を身に付けさせる教育	製作した課題を、生徒同士で相互評価をさせる機会を設ける。